

雜 報

人 事

<p>西 澤 義 一 (一月十五日) 海軍軍醫中佐</p> <p>中 野 太 郎 (二月二十日) 岡山醫科大學教授</p> <p>田 中 文 男 (二月二十八日) 岡山醫科大學教授</p> <p>林 道 偏 (二月二十八日) 臺灣總督府臺北醫學專門學校教授</p> <p>杉 山 九 一 (二月二十一日) 海軍軍醫中尉</p> <p>饗 場 美 誠 (三月五日) 東京帝國大學教授</p> <p>島 齒 順 次 郎 內科學第一講座擔任ヲ免ス</p> <p>柿 沼 吳 作 岡山醫科大學教授</p> <p>林 道 倫 岡山醫科大學附屬醫院長</p> <p>廣 川 濟 浦風乘組海軍軍醫大尉</p> <p>田 中 文 男 岡山醫科大學長</p> <p>奧 島 貫 一 郎 岡山醫科大學教授</p> <p>齋 藤 清 陸軍三等軍醫正 從六位勳四等</p>	<p>陸軍一等軍醫 從六位勳六等 井 原 愛 雄</p> <p>任陸軍三等軍醫正</p> <p>陸軍二等軍醫正 齋 藤 清</p> <p>補第五師團軍醫部部員</p> <p>第五師團軍醫部部員 陸軍三等軍醫正 杉 山 總 之 助</p> <p>補步兵第十一聯隊附</p> <p>雞知重砲兵大隊附 陸軍一等軍醫 丹 原 驍 夫</p> <p>補旅順重砲兵大隊附</p> <p>第十九師團軍醫部部員 陸軍三等軍醫正 石 井 義 章</p> <p>補普通寺衛戍病院附</p> <p>第二十師團軍醫部部員 陸軍三等軍醫正 井 原 愛 雄</p> <p>補富山衛戍病院附</p> <p>豐橋衛戍病院附 陸軍三等軍醫正 中 村 慶 藏</p> <p>補飛行第七聯隊附</p> <p>步兵第十聯隊附 陸軍一等軍醫 吉 永 義 雄</p> <p>待命被仰付 (三月十六日)</p> <p>專賣醫 多 田 繁</p> <p>願=依り本職ヲ免ス (三月十八日)</p> <p>吳防備隊軍醫長兼分 隊長海軍軍醫少佐 栗 栖 幸 穂</p> <p>兼補吳海軍病院部員</p> <p>加古軍醫長兼分隊長 海軍軍醫少佐 大 岩 博 雅</p> <p>吳鎮守府附被仰付 (三月二十日)</p>
<p>敍從七位</p> <p>歐米各國へ出張ヲ命ス</p> <p>陸軍高等官一等</p> <p>陸軍高等官四等</p> <p>東京、京都、大阪ノ三府下へ出張ヲ命ス</p> <p>豫備役被仰付</p> <p>職務俸金貳千貳百圓下賜</p> <p>依願岡山醫科大學附屬醫院長ヲ免ス</p> <p>職務俸金千九百圓下賜</p> <p>補第十七驅逐隊軍醫長</p> <p>歐米各國へ出張ヲ命ス</p> <p>任陸軍二等軍醫正</p>	<p>陸軍一等軍醫 從六位勳六等</p> <p>陸軍二等軍醫正</p> <p>第五師團軍醫部部員 陸軍三等軍醫正</p> <p>雞知重砲兵大隊附 陸軍一等軍醫</p> <p>第十九師團軍醫部部員 陸軍三等軍醫正</p> <p>第二十師團軍醫部部員 陸軍三等軍醫正</p> <p>豐橋衛戍病院附 陸軍三等軍醫正</p> <p>步兵第十聯隊附 陸軍一等軍醫</p> <p>專賣醫</p> <p>吳防備隊軍醫長兼分 隊長海軍軍醫少佐</p> <p>加古軍醫長兼分隊長 海軍軍醫少佐</p>

- 島園順治郎君 日獨交換教授の榮譽を荷へる東京帝國大學教授島園順治郎君は去月 25 日東京驛を出立し同月 28 日神戸解纜の鹿島丸にて出帆せられたり
- 蓮井直衛君 は豫て歐米各國視察の途に在りしが本月 15 日無事歸朝せられたり
- 宮本種美君 は今般高知市武田病院を辭し再び岡山醫科大學附屬醫院耳鼻咽喉科教室に於て研究に従事せられたり
- 川西英雄君 は今般廣島市猫屋町坂井外科病院を辭し岩手縣一鷹町昭和病院に勤務せられたり
- 内田茂雄君 は今般秋田縣小坂鎮山病院を辭し岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室に勤務せられたり
- 竹島光藏君 は豫て大阪同生病院に勤務し居られしが今般同院を辭し大阪市南區長堀橋筋一丁目に於て「レントゲン」科専門にて開業せられたり
- 久本實三君 は多年岡山醫科大學稻田内科教室に勤務し居られしが今般辭職岡山市天瀬に於て開業せられたり
- 正田政人君 は今同山口縣柳井町同生病院を辭し同町新市一丁目に於て開業せられたり
- 宇都宮博章君 は舊鹽石川縣能登病院を辭し開業準備中の處今同大阪府南區高津十番町二番地に於て開業せられたり
- 阿西龜太郎君 は明治 17 年岡山縣醫學學校を卒業し直ちに岡山縣立病院内科に勤務せらるること十數年後同院を辭し當市東中山下に於て開業し居られしが今同都合により東京市外長崎町並木一四四七に轉居せられたり
- 三宅修造君 は今般兵庫縣精道村西芦屋に轉居せられたり

◎學位授與決定 田宮貞亮君は論文を東京帝國大學醫學部に提出し學位を請求し居られしが去月二十三日の教授會に於て醫學博士の學位を授與すべきものと決定ありたり其主論文は左の如し

ワッセルマン氏黴毒反應に及ぼす温度の影響に關する研究

特に癩血清に現はるる非特異性ワ氏反應の零度法による鑑別法

◎學位授與 武田俊一郎君は豫て論文を京都帝國大學醫學部に提出し學位を請求し居られしが一月二十一日の教授會を通過し先般醫學博士の學位を授與せられたり其主論文は左の如し

小兒赤痢の研究

◎卒業生 本年度の岡山醫科大學卒業生氏名は左の如し

石川 適	岡山	飯尾 勝海	島根	蜂谷 道彦	岡山
帆足 九萬三	大分	大島 松一	岡山	小野田 良一	岡山
小田 敬進	岡山	和田 達郎	島根	河合 郁二	兵庫
加藤 五郎	靜岡	葛城 雷次郎	福岡	龜山 茂松	福岡
吉田 和男	岡山	高橋 重勝	熊本	田代 喬	島根
武信 芳郎	東京	谷 尙一	兵庫	玉木 康允	香川
中田 敏哉	島根	馬詰 征平	兵庫	桑原 良一	岡山

藏 本 積 廣 島 山 本 晴 造 岡 山	安 井 彌 八 兵 庫
小 林 章 廣 島 後 藤 藤 勇 長 野	佐 野 進 梯 大 分
佐 藤 信 平 岡 山 佐 藤 秋 夫 岡 山	佐 藤 勝 六 香 川
木 屋 梓 新 潟 瀧 岡 山 齋 藤 義 次 岡 山	最 所 毅 郎 佐 賀
北 義 保 兵 庫 木 村 誠 七 郎 新 潟	岸 舟 淳 夫 島 德
宮 崎 義 則 愛 媛 三 木 行 治 郎 岡 山	白 石 功 熊 本
進 藤 眞 作 兵 庫 湊 水 次 勝 京 都	神 藤 達 男 愛 知
森 六 朗 岡 山 鈴 木 章 岡 山	

◎入學許可 岡山醫科大學にては本年の入學志願者百四十五名ありを以て本月十七、十八の兩日選抜

試験を執行し其結果左記六十四名に入學を許可したり

石 川 昂 香 川	石 井 研 二 廣 島	井 上 正 之 福 岡
西 村 正 治 和 歌 山	西 川 規 夫 兵 庫	外 山 孝 二 愛 媛
友 保 誠 岡 山	大 島 捷 六 石 川	大 林 義 彦 廣 島
大 見 良 秀 愛 媛	小 田 群 太 郎 鳥 取	岡 崎 春 雄 廣 島
尾 崎 嚴 衛 岡 山	若 尾 五 雄 山 梨	和 田 直 京 都
川 本 桂 一 郎 奈 良	川 北 良 水 高 知	河 野 圭 之 沖 繩
吉 田 三 郎 山 形	田 中 守 義 岐 阜	筒 井 安 雄 和 歌 山
難 波 武 夫 岡 山	内 藤 豐 福 井	上 村 良 一 山 口
上 塚 萬 壽 男 大 阪	内 山 宗 一 兵 庫	鷓 飼 昌 裕 愛 媛
野 崎 澄 治 岡 山	倉 内 勇 吉 大 阪	山 口 春 海 和 歌 山
山 谷 幹 郎 岡 山	眞 嘉 屋 實 亨 沖 繩	松 島 春 和 香 川
小 泉 三 郎 廣 島	後 藤 脩 吉 由 香 川	寺 島 藤 清 志 岡 山
安 達 龍 夫 香 川	安 里 昌 四 郎 沖 廣 島	淺 沼 賢 三 長 野
明 石 愛 爾 山 口	赤 松 金 了 齋 藤 原 涉 岡 山	坂 本 貞 夫 島 根
齋 坂 中 只 三 岡 山	神 原 隆 紀 兵 庫	佐 々 木 桂 一 山 口
木 口 浩 輝 夫 岡 山	美 田 隆 之 岡 山	志 茂 正 規 岡 山
宮 木 田 齊 司 山 口	水 田 隆 善 夫 廣 島	日 淺 靜 逸 愛 媛
平 菱 木 高 誠 千 葉	森 正 久 福 臺	森 加 寅 太 郎 廣 島
守 屋 誠 之 岡 山	石 天 之 福 臺	關 寅 太 郎 長 野
杉 山 俊 之 福 岡		